あすなろの木

光明中だより
編集者：校長 上田 薫
No.4
平成30年 5月28日

小満（しょうまん）の季節
～中間テストを終えて～

先週は、月・火曜日に中間テストがありました。1年生にとっては初めてのことで、「緊張した」という人も多かったことでしょう。さて、これからが大切。定期テストは、何のために行うのか!?。それは今回の中間テストならば、事前に配布した、テスト範囲表にあった通り、各教科で学習したその内容について、自分の理解度（「わかった！」がどれだけなのか）を確認するために行うものです。だから、「正解＝理解できている」こととして、自信につなげましょう。そして、「間違ったところ」や、「わからなかったところ」、ここが大切。このままにしておくのではなく、時間をかけて、“わかった自分に出会う”ために頑張ろう!!。“友達に聞く”“先生に聞く”“参考書で調べる”自分で努力することが大切。この“力”を身につけよう！

さて「小満」って何？初めて聞いた人？「ハーイ」そうか…当然ですね。小満とは、古くから使われてきた暦（こよみ）である「二十四節気（にじゅうしせっき）」の中の一つです。（一年を4つに分ける：春分、夏至、秋分、冬至、それを、さらに6つに分ける。春分～夏至までを6つに分ける。その中の一つとして“小満”という季節があります。）今年の小満は、5/21（月）でした。この小満から次の「芒種（ぼうしゅう）、6/5（火）」までの季節を小満の季節と言います。その意味は、「陽気が良くなり、草木などの生物がしだいに成長して生（お）い茂る頃（季節）」です。いかがですか、今のこの季節、週末から休日も気温は30℃近くになりますが、湿度は低く、とても『カラッ』として、しのぎやすい気候ですね。木々の緑も日増しに深まり、まさに「THE 小満」です。

＜「生命の大切さを考える月間」の取組、始まる＞

さて、先日（5/24、木）の5・6限目に、上記取組の一つとして、「生命の講演会」を行いました。講演をしてくださったのが、NPO法人「KENTO」代表理事の児島早苗（こじまさなえ）さんです。

本校のこの取組、もう10年近くになります。私や1年生にとっては初めて体験する取組ですが、“生命（いのち）”は何よりも重く、尊（とうと）く、かけがえのない」ものであることを、改めて認識し、心に刻みこむことを目的に行っています。

今から、ちょうど18年前の5月、児島さん家族を襲（おそ）った突然の悲劇」（最愛の息子さんを交通事故で亡くす）、その悲しみ・苦しみ・絶望感がどれだけ大きく、想像を絶するものであったのか、そして、その中をのり越え、今、生命（いのち）を与えられ、この世を生きる者（私たち全て）が、何を大切に考え、どう生きていくことが必要なのかを、一言一言に心を込めて、お話してくださいました。

児島さんのお話に、しっかりと耳を傾け、その言葉を、その心を受けとめようとしている君たちの姿がありました。目を閉じ、頭の中で大切な人の顔を思い浮かべお話を聞いたと思います。

私が、この講演会の最後のあいさつで述べたことを伝えます。

“いただいた「生命（いのち）」を必ず守る。”
“いただいた「生命（いのち）」に感謝する。”
そして“「生きる」ために一生懸命になる。”

私も実践します、君たちも絶対に忘れることなく日々実践していきましょう。あなた方は全て、“かけがえのない（他に代わりになるものが無い）”人たちなのですから。

＜「生命（いのち）のメッセージ展」その1＞準備編

5/24（木）、放課後、翌日からのメッセージ展開催に向け、多目的室の会場設営・準備を行いました。児島さんからも、講演の最後に「会場準備をするのに少しでも時間のある人は手伝ってください。」と呼びかけをしてくださったところ、生徒会本部役員の人たちと有志の人たち、あわせて20名が、かけつけてくれました。（写真下左）

校長室にあったメッセンジャー等（等身大のパネルやくつ）を会場（多目的室）まで運び込むと、児島さんからの説明を受けながら一人一人のメッセンジャーを並べていきました。（写真下中）、そして、メッセンジャーがはいていた靴（くつ）も並べました。（写真右）単に置くのではなく、その人の気持ちを考え、揃えました。

20人が力（心）をあわせて会場をつくりあげました。

最後、残ってくれていた2年生の男女3名に、この準備になぜ参加しようと思ったのか、その「思い」をたずねました。すると、3名は、それぞれ、次のように話してくれました。お聞きください。

〈子どもたちの思い〉
○「今日の講演で、児島さんから『目を閉じて、私の話を聞いてください。あの時私の息子に一体何が起こったのか、について話します。』と言われ、その話を聞きながら、私は真っ先に『母』のことを思い浮かべた。しかし、私には、想像ができなくて、そう考えたら、お手伝いをしようと思い立って参加した。」
（2年生女子）
○「今日のお話を聞いて『自分に何ができるのか』がわからなくて、この準備のお手伝いをしたら、『その答えを見つけ出せるかも知れない。』そう思って参加した。（2年生女子）
○「自分でも、『何かの役に立てるのかも知れない。』と、ふとそう考え、準備に参加することにした。」そう答えてくれた彼は、メッセンジャーの前にひざまずき、両手を合わせながら祈るように見つめていた。（2年生男子）

いかがですか。それぞれの話にすごく熱いものを感じました。そして、中学生の“純真”な心に、改めて魅せられた気がしました。おそらくこの日、準備に関わってくれた全ての人が“熱い志”を抱き、やってきてくれたに違いありません。お手伝いしてくれた人たち、本当にご苦労さまでした。そして、ありがとう。

＜保護者の皆様へ お知らせ＞

1.「生命（いのち）のメッセージ展」開催期間、見学開始時刻の変更について

5/26（土）の連絡メールでもお伝えしました通り、期間及び見学開始時刻を変更させていただきます。誠に申し訳ございませんが、何とぞ、よろしくお願いいたします。

＜変更内容＞
- 開催期間　5/31（木）→ 5/30（水）まで
- 見学開始時刻　AM 9:00 → AM 11:00～

尚、開催期間中は、講演者の児島さんが、ずっと会場（多目的室）にて待機し、ご説明をしてくださっています。是非、この機会に、ご来校いただき、メッセンジャーからの問いかけに耳を傾けてみてください。

お待ちしております。

2. 麻しん（はしか）への予防について

先月、沖縄県で集団発生した麻しんが、全国各地での感染報告が見られています。5/24（木）に発行しました「ほけんだより5月号」にてお伝えしました通り、感染を予防する最良の方法は「予防接種」です。成人になってから発症することを防ぐためにも、今一度、お子さまの予防接種の状況について、ご確認いただきますよう、お願いいたします。また、万一“未接種”や“1回のみの接種”の場合には、2回の接種により、体内に「免疫」がつけられることをお勧めいたします。

詳しくは「ほけんだより5月号」をご熟読ください。

※表面“玄関のお花”は、「スクールボランティア、油浦直美さん」のご厚意です。いつもありがとうございます。